

N16a 文献比較から得られた超長周期変光星候補天体とその特性

藤原 智子 (DANOF Observatoire de Paris、京産大理)、三好 蕃 (京産大理)

現在広く用いられている近代的手法による変光星の研究が始ったのは、20世紀に入ってからのものである。その為、当然のことながら、100年超の変光周期を持つ変光星はまだ見つかっていない。しかし、19世紀以前の精度の悪い観測データであっても、変光幅の特に大きい星を見つけ出すために使うことは可能であろうとの考えから、これまで、下記の文献 1, 2, 7, 8 に記録されている各恒星毎の等級変化を調べ、それが目立って大きいものに注目して超長周期変光星候補天体を割り出していた。今回は、新たに4つの文献 3-6 を加えて全8個となった古文献のデータの比較調査から浮かび上がった、超長周期変光星候補天体およびその物理的特性について報告する。

1. 「Almagest」(137年) L.Claudius Ptolemaeus(Toomer 訳)
2. 「Šuwar al-Kawākib」(986年) Al-Šūfi
3. 「Ulugh Beg's Catalogue of stars」(1437年) Ulugh Beg(Knobel 編)
4. 「Astronomiae Stauratae Progymnasmata」(1572年) Tycho Brahe
5. 「Uranometria」(1603年) Joannes Bayer
6. 「Hystoria Coelestis Britannica」(1725年) Joannes Flamsteed
7. 「Uranometria Nova」(1843年) Wilhelm August Argelander
8. 「Sky Catalogue 2000.0」